

本年5月に鉄道協会の仕事で富山へ行きました。富山では、新幹線開業に伴い新しくなった駅から、JRから分離し新たに第三セクターとして発足した「あいの風とやま鉄道」が新しい車両を運行し、駅北口からは市民の足として活躍している「富山ライトレール」のLRV (Light Rail Vehicle) が発着していました。鉄道が活躍している姿を見られるのはうれしいものです。しかし、JR発足時に第三セクター化した事業者の中には、設備・施設の老朽化対策などで苦勞されているところもあり、「あいの風とやま鉄道」でも時代の経過と共に、同様の苦勞が生じるかもしれません。また、「富山ライトレール」は、前身の「富山港線」という乗降人員が少なかったローカル線から、市民の足として生まれ変わるに、LRT化という大きなシステムチェンジを実施されました。

鉄道技術推進センターは、設備・施設の老朽化対策やシステムチェンジをはじめとした、さまざまな課題に直面されている事業者の方々と共に、技術的な共通課題の解決を目的に1996年に設立されました。本年で20周年を迎えることを契機に、改めてセンターの果たすべき役割を確認し、これから10年、20年後に向けて活動するためのご意見を頂きましたものを、「鉄道技術推進センター20周年」と題して特集を組みました。

来月号の特集は、「さらに安全な鉄道をめざして」です。特に脱線・衝突に対する安全性向上に関しまして、鉄道総研で進めています。乗り上がり脱線しにくい台車や、地震や衝突などの非常時においても、脱線を防ぎ乗客の障害を低減する研究につきて紹介します。どうかご期待ください。(T.S.)